

夢サラダ Vol.43

2009.1.1 発行

市民活動の拠点を目指しています。

「今治市民活動センター」

指定管理者：(特非) 今治NPOサポートセンター

【お問合せ】TEL/FAX 0898-25-8234

Npoカフェ大盛況！

約30人の方々にご来場いただきました。誠にありがとうございました。



日時：9月11日(木) 19:30~21:00

会場：今治市民活動センター1階 大会議室

今回の話題 「NPOと協働開発した“今治タオル”の魅力」

ゲストスピーカー 田中 良史氏(田中産業株式会社 代表取締役社長)



ポイント

社会的活動へ踏み込む企業、市民社会実現を目指すNPO、両者がパートナーとして手を結ぶケースが増えています。そうしたなか田中産業は、視覚障害者の社会参加を支援しているNPO法人「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」と提携し、繊細な感性をもつ視覚障害者たちの個性をいかして新製品を協働開発しました。



視覚障害を伴った人たちと新製品を開発した経緯を説明される田中社長



企業の技術 × NPOの専門性 = 可能性！

田中産業

ダイアログ・イン・ザ・ダーク

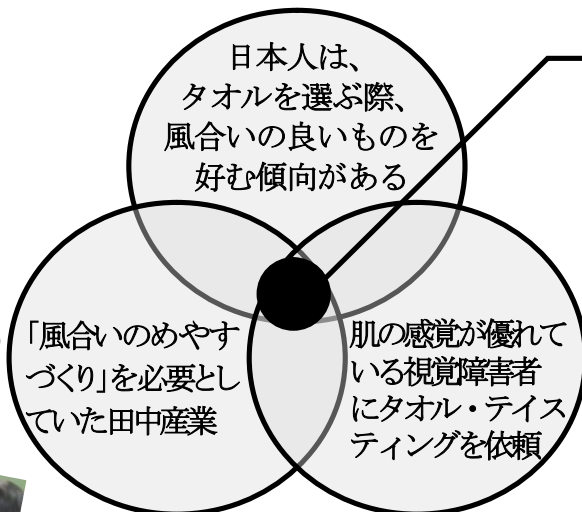
新製品



↑ 熱心に耳をかたむける参加者のみなさん



↑ コーヒーやシュークリームをいただきながら親睦を深めました



「DIALOG IN THE DARK TOWEL (ダイアログ・イン・ザ・ダーク・タオル)」誕生！

視覚障害者の豊かな感性をベースに、タオル本来の機能である「肌にふれた時の吸水・吸湿」はもちろん、「肌に触れた時の肌触り・風合い」など、使う人の感性に訴えかける、品質を重視したタオルが誕生した。↓チェックGO！
www.goldpearl.co.jp

★田中氏からのご提案

寄付は長く続きません。企業、NPO両者にメリットのあるカタチを構築してみてもいい。

★参加者の声

企業と対等に契約関係を構築できるよう、NPOのスキルアップが求められていると感じた。NPOの強みである、専門性、地域性、当事者性などをいかした活動を意識したいと思う。

★NPOカフェって？

自発的な市民の動きを大きなチカラにしていけるために、人と人の交流を深めるイベントです。活動に必要なスキルを学んだり、必要なスキルを高めたりするエッセンスをご提供していきますので、お気軽にご参加ください



今治市民活動センターでは、みなさんのお役に立つ講座や企画を展開しています。ご要望などございましたら、ぜひお聞かせください。



にんぎょうげき & “でんしれんぢ” ライブ

日時: 11月23日(日) 12:00~13:00
場所: さいさいきて屋(今治市中寺279-1)

がんばれ!
スペシャルオリンピックス(SO)!
日本・愛媛・今治

♥ NPOカフェ in さいさいきて屋 ♥

●ライブでは…

スペシャルオリンピックスの活動を、伯方町の「人形劇団・ほび」が紹介。
今治市民活動センターでは、**広報ツール制作プロジェクト**を実施していて、この日は、そのプロジェクトの発表の場となりました。

趣旨に賛同し、“でんしれんぢ”がスペシャルゲストとして参加してくださり来場者と一緒に「ゆうきのうた」を大合唱! 会場はおおいに盛り上がりました!



<カフェ タイムテーブル>

12:00~ オープニング
12:10~ 「でんしれんぢ」ライブ
12:35~ にんぎょうげき
12:45~ 「ゆうきのうた」
12:50~ エンディング

●広報ツール制作プロジェクトとは…

自発的な市民の活動を継続展開していくためには、「人・もの・金・情報」など様々な資源が必要です。



必要な資源を集めるために、団体は活動の意義や内容をたくさんの人に伝え、共感の輪を広げていくことが求められます。



地域や社会の課題を解決しようとする活動を、第三者の視点を加味しながら一人でも多くの人に伝えようと、今回はSOの活動を人形劇で紹介することにしました。

●広報ツール制作にむけて…

①講座 「自分を知るチカラ」 6月1日(日)実施

スペシャルオリンピックス日本・愛媛・今治(SO今治)のメンバーが集まり、活動の原点の確認、メンバー個々のビジョン整理を行い、今後の方向性などを共有しました。

②シナリオ作成(～8月末)

SO今治のメンバーと、市民活動センターのスタッフらが話し合い、情報を届けたいターゲットをイメージし、団体を紹介する物語を作成しました。



「スペシャルオリンピックス」は、知的発達障害を伴った人たちの自立や社会参加支援を目指し、スポーツプログラム、競技会を提供している国際的な組織です

← これまでの活動や今後の希望などをシートに記入しました

③人形劇制作(9月～10月)

SO今治の活動目的を、人形劇の演技手である「人形劇団・ほび」(伯方町)に伝えました。
大筋できていたシナリオは「人形劇団・ほび」の手により、人形劇の脚本に仕立て直されました。「ほび」は練習を積みながらオリジナル人形も作ってくれました。



↑ 今回の人形劇のために、オリジナル人形をつくる「ほび」のメンバー



← 「SO今治」「人形劇団・ほび」「でんしれんぢ」の打ち合わせ

●事前の打ち合せ、リハーサル…

スペシャルゲストとしてライブを引き受けてくださった「でんしれんぢ」をまじえ、「SO今治」と「人形劇団・ほび」が人形劇公開の打ち合せをしました。一人でも多くの人が足をとめ、観覧してもらうために、三者が目的を今一度、共有。
半年かけて準備してきた人形劇はこの日、台詞の確認を行うなど最後の作業となりました。





ライブのチカラ!! 伝えるチカラ!!

スペシャルオリンピックス
日本・愛媛・今治

Collaboration



伯方島・人形劇団
ほ ぴ

Plus



でんしれんぢ
ライブ

「でんしれんぢ」の心がほっこりと温まるオリジナルソングや、大ヒット中の「ゆうきのうた」などが披露され、会場はアットホームな雰囲気に包まれました。

「人形劇団・ほぴ」の舞台では、引きこもりぎみだった主人公の女の子が「SO今治」と出会い、ボウリングに親しんでいく様子が、ユーモアをまじえて紹介されました。



←主人公の希望ちゃん^{のそみ}が川でおぼれているネコを救ったことから物語りは始まります

↓元気よく歌いました



「ゆうきのうた」

作詞 めぐーた 作曲 まこつちゃん

みずたまりに映ってた
みずいろ なみだがお
水色の空に 涙 顔
なんだか笑われているようで
わざとこいしを投げてみた
ほんのちよとした温度差なのに
巻き戻しができない
じかん た むす め
時間の経った 結び目は
固くなってゆくのにね
大人も子ども みんなみんな
今すぐ「ゴメン」って言えるといいな
こきゅう がんば
呼吸するように 頑張らないように
でき かぎ
出来る 限りをやればいいんだ

← 冬季大会の出場を報告する
木原誠哉くん

→
会場のみんなで
「ゆうきのうたを」
大合唱しました



今年2月、アメリカ・アイダホで開催されるスペシャルオリンピックス冬季世界大会に出場が決まっているSO今治の木原誠哉くんに、みんなでエールを送りました。
←サポートしてくださっている企業のお名前は、応援フラッグに明記しました。

来場者の声

人形劇は、思わず笑ってしまうほど楽しいものでした。パラリンピックは知っていましたが、スペシャルオリンピックスは存じ上げませんでした。SO今治の方たちと一緒に「ゆうきのうた」を歌ったことが心に深く刻まれています。家族みんなで応援していきます。



広報ツール制作プロジェクト次回予告

今回は、「広報ツール」として団体のプロモーションDVDを制作いたします。団体の活動現場にカメラが密着、その模様を収録、インタビュー取材し、ナレーション、BGMをつけて編集いたします。

今後、DVDを制作する団体の募集時期や制作までのプロセスについて、夢サラダなどを通してお知らせしていく予定です。ふるってご応募ください。(多数の場合は、ヒアリングのうえ決定させていただきます)

今治市民活動センターでは、「ボランティア・市民活動への共感の輪を広げる」ことをめざし、様々な団体の魅力を伝えるお手伝いをしていきます。



平成20年度

今治市市民が共におこすまちづくり事業 の助成を受けた団体の事業ご紹介

NPO法人ファインサポート・パピエ

要約筆記などを通して、中途失聴者などの聴覚障害者や高齢者への支援をする法人です。
「パピエ」とはフランス語で、「紙」です。「元気(ファイン)」を応援する「ファインサポート」を目指しています。

パピエでは、今治市市民が共におこすまちづくり事業の助成をうけ下記の催しを開催しました。



こうちゆみえ

●甲地由美恵講演会「夢をあきらめない」

9月23日(火・祝) 今治市総合福祉センター「愛らんど今治」
聴覚障害を持ちながら、プロボディボーダーという夢を実現した甲地由美恵さんの講演会。

趣 旨: 外見からわかりにくい障害といわれている「聴覚障害」、
「要約筆記」を知ってもらう。

参加者: 約130人



●らくさぶろうの字幕落語 & フリートーク

11月29日(土) 今治市総合福祉センター「愛らんど今治」

後 援: 今治市・今治市教育委員会・今治市社会福祉協議会・愛媛聴覚障害者協会・今治市越智郡聴覚障害者協会
難聴児を持つ親の会愛媛県支部

趣 旨: 聴覚障害を伴う方たちにも楽しめるエンターテインメントを！

参加者: 約300人



開催までのプロセスや、当日の様相などについて、パピエ代表の原田佳代さんにお話をうかがいました。

プログラム

- 寿亭又三郎「動物園」
- らくさぶろう「替わり目」
- らくさぶろうのフリートーク

聴覚障害者の内、手話のできる方は、15%程度とされています。
人生の途中で失聴した方にとっては、手話の習得は簡単ではありません。

要約筆記とは？

耳の不自由な方に、話し手の話の内容をその場で要約して文字で伝えることです。

話の内容を、スクリーン投影する方法他、1対1で手書きで伝える方法もあります。

NPO法人
ファインサポート・パピエ 平成19年4月設立

落語の高座に字幕を 付ける県内初の試み！！

らくさぶろうさんの落語に会場は大爆笑！さすが～

2つのスクリーンに、字幕とステージが映し出される



↑ 要約筆記は、4人1組で行います



人気キャラクター
らくおばちゃんも登場！

Q. 字幕落語を開催しようと思ったきっかけは？

パピエのスタッフが大阪で字幕落語を鑑賞、自分たちもチャレンジしてみよう…。

Q. らくさぶろうさんへ出演依頼をしたのは？

メンバーで演者を誰に依頼するか話し合いました。そこで、落語にあまり関心のない方にも親しみをもってもらえる落語家としてらくさぶろうさんに依頼することを決めました。面識はありませんでしたが、字幕落語の趣旨をお話したところ二つ返事で快諾していただきました。

Q. 開催にむけてご苦労されたこと、今後の抱負は？

事前にらくさぶろうさんから、生の落語高座を録音したテープをいただき、テープおこしをし字幕を用意しました。しかし、スクリーンに出すタイミングは簡単ではありません…。落語の場合、スクロール(字幕を上下に移動させること)では話のテンポが伝わらないため、映画の字幕と同じスタイルを採用しました。

このスタイルは編集にかなりの時間を要しますが、落語の躍動感を出すため勇気を出して決断しました(笑) 今後も様々な場面で文字による情報保障を行い、社会参加の

促進などお役に立っていきたくと考えています。

編集後記

らくさぶろうさんの落語は、しぜんと物語の光景が頭の中に広がりました。その世界は、耳の不自由な方たちとも共有していたのではと思うと不思議な感動を覚えました。中途失聴者の方が、「大好きな落語がまた楽しめるなんて…」と喜んでいらした笑顔が忘れられません。笑いのバリアフリーを心から実感できました。(齋)

1分間で

★人間がしゃべる文字数
300文字～350文字

★読んで理解可能な文字数
約200文字

そのため、要約筆記では話を要約するスキルが重要となります

■お問い合わせ■

代表 原田 佳代

TEL/FAX (0898)33-1355

papier0704@yahoo.co.jp

今治市南鳥生町3-3-36